

「災害対応から安心につなげる仕組み作り」議事録

開催日時：平成28年11月25日（金） 13：30～16：00

会 場：菊川ふれあい会館アブニール 2階研修室

参加者：13事業所 17名（内個人会員2名）

（内容）

今年度の活動内容についてブロック会議にて検討した際、会員より災害時の事業所間の協力体制の構築をしてはどうかと提案があり、ブロック研修会のテーマとして取り組むこととした。

1. 「災害対策から安心に繋げる仕組み作り」について提案者の江藤文彦氏（アイユウの苑GH）より説明。

（別紙1参照）

2. 災害時の事業所間の協力体制の仕組み作りを行っていくことについて検討。

- ・災害時に他の事業所の協力が得られるのは安心。実際に仕組みを作っていく中で、問題点・課題等が出て来ると予想されるが、利用者の安全確保、職員の不安軽減を考えるとデメリットよりメリットの方が多いと感じる等の意見があった。
- ・参加者に協力体制の構築について賛否を挙手にて確認したところ全員が賛成という結果であった為、どのように仕組み作りをしていくか等を具体的に検討してみることになった。

3. 江藤氏主導により、グループワークを取り入れながら今後の進め方等について具体的に検討。

（1）事業所間での協力体制の仕組み作りをすることの目的について。

- ・ブロック内の他事業所とも仲間意識が強くなる。
- ・不安が減って安心が増える。
- ・事業所間の情報交換がスムーズに出来、協力し易くなる。
- ・災害対策の見直しができる。
- ・ネットワーク作りができる。
- ・災害時の備品・人材が確保できる。
- ・利用者の安全確保。
- ・物資支援等のマニュアルができる。

- ・同じ職種なのでスムーズな対応が可能。
 - ・職員が安心できる。
 - ・支援が必要な事業所に敏速な対応ができる。
- (2) 「もし、水害が起きてしまったら」と仮定して、どのような仕組みが理想的か。
- ・早い・細やかな連絡・対応ができる仕組み。
 - ・災害対策本部があり、必要な物資、役割を連絡網を通して伝えられる仕組み。
- (3) 仕組みを作るにあたり、どんな組織にしていきたいかタイトルを考える。
- 『スクラムを組んでいつでもかけつけます!!山口県 GH 協会をリードするチーム
～正確な情報共有とすばやい対応ができる組織～』
- (4) いつまでに実現したいか
- H29年5月末まで
- (5) 今後の予定について
- ・検討会議を開催し、具体的な仕組み（マニュアル等）を作成していく。
 - ・今回、参加できなかった事業所へも今回の研修会の内容を伝え、仕組み作りを進めていくことについて意思確認をする。
 - ・仕組み作りに参加を希望しない事業所があった場合の対応について検討する。
 - ・各事業所での決裁権限者に取り組みの意図を理解してもらいやすいように、GH協会からの依頼文書を送付する。
 - ・個人会員（事業所は非会員）の場合の取り扱いについて検討する。

4. 次回会議開催について

H29年1月末 開催予定

次回会議までに行うこと

GH協会：災害時の事業所間の協力体制の仕組み作りに関する文書を各事業所に送付する。

各事業所：①仕組み作りに参加することについて事業所の決裁権限者の了承を得る。

②備蓄品の量について検討する。

5. その他

災害時の備えや地域との連携、運営推進会議の運営についても意見交換を行った。